

た。大部分は横浜で修業した人々であつたが、これらの新人が各所にちらばつて食パンを普及したものだといふ。

明治四年（一八七一）にはこの築地の一角に精養軒ホテルが誕生した。経営者は北村重威でそのあと押しは岩倉具視卿であつたといふ。北村は料理長としてスイス生れのフランス人チャリヘスを招いて商売をはじめた。ここでつくつた食パンはホテルの用に供するだけでなく、市内の外人宅にも配達されて非常に評判になつた。

ところが明治五年（一八七二）二月二十六日の大火でこの築地も全焼した。火元は和田倉門内の旧会津藩邸であつたが、折りからの大火で日比谷から銀座、築地の一帯が焦土と化したのである。

その焼けあとに出現したのが銀座の煉瓦街であつたが、築地ホテル館と江戸ホテル館は再興成らず、精養軒ホテルだけは翌年再興した。しかしその規模が小さかつたので料理長のチャリヘスは再就職を断念、築地居留地にチャリ舎という家号の店をもつてフランスパンの商売をはじめた。それは明治七年（一八七四）のことだつたが、それから明治・大正にかけての長い期間、このチャリ舎は東京を代表するフランスパンの店として繁昌した。チャリ舎のお得意の主力は在留外人であつたが、チャリ舎が伸びたのは在京の外人がどしどしふえていつたことにも原因がある。

昭和初頭新宿中村屋の職長に迎えられた石崎元次郎はこのチャリ舎の出身であるが、彼はこの築地が東京における食パンの誕生地であると断言「この築地居留地はアンパンの元祖木村屋総本店と共に永遠に業界史に記録されるべきであらう」と語つてゐる。

このチャリ舎に続いて亀屋が築地でパン屋をはじめたが、この店の主人は外人専門の商人であつたといふ。

（付記）五港中の函館及び新潟居留地のパンに付いては別に言及する。

## 第四章 パン食文化の開拓者

### 第一節 居留外人の役割

およそ食生活くらい保守的なのはない。そのもつとも保守的現状維持的な食生活を洋風化するのに大きく役立つたのは居留外人であつた。日本人が欧米に居留すると、欧米人の食生活に順応すべく努力するが、欧米人は日本にやつてきても欧米式なパン食生活をつづける習慣からぬけきれない。なぜかういふことになるのかについてはいろいろな見方が成り立つたろう。しかしそれはともかくとして、ここでハッキリ云えることは、この居留外人たちによつて日本民族の食生活が大きく洋風化され、パン食が浸透していつたといふことである。この点は欧米人が多数居留していた横浜、神戸、長崎などのパン食率がいまなおたかいことによつてみごとに立証されてゐる。

このような事実からいつてパン食文化の発達と居留外人は不可欠の関係にあるので、以下この点に言及する。

まづ第一に開国後まづさきに海外文化輸入の大支関となつた横浜の人口からみた洋風化現象の推移についてみると、あらまし以下の通りである。

#### 横浜の膨脹状況（安政六年開港）

西 歴	年 代	日 本 人(人)	欧 米 人(人)	支 那 人(人)
一八五九	安政六年	六〇〇	不 明	不 明
一八六三	慶応三	二〇、八八〇	一、一三〇	〃
一八六九	明治二	二八、五八九	不 明	〃
一八七二	〃 五	六四、六〇二	一、〇七〇	九六三
一八七七	〃 一〇	五七、八一八	一、二〇五	一、一四一
一八八二	〃 一五	七六、一三五	一、三五八	二、一五四

地区別	人口	地区別	人口
(北海道)	七五一	福島	四二
青森	二三	(東北計)	三八六
岩手	七二	茨城	二八
宮城	一六七	栃木	五六
秋田	六二	群馬	五〇
山形	二〇	埼玉	一六
千葉	一一四	奈良	六八
東京	五、六一〇	和歌山	五八
神奈川	一〇、〇三三	(近畿計)	一〇、六一三
(関東計)	一五、九〇七	鳥取	二五
新潟	八二	島根	二七
富山	四二	岡山	二二八
石川	七四	広島	二九八
福井	一一一	山口	一九九
山梨	三三	(中国計)	六七七

これで見るとこの半世紀の間に横浜の人口は約六三〇倍にふえた。そして在留欧米人は二千人をこえ、在留支那人は四千人にせまった。食生活洋風化の原動力になつたのはいうまでもなくこの在留欧米人であるが、明治時代に入つてから意外にその伸びがゆるやかなのは、欧米人が居留地にかたまらず全国的に分散したことにも原因がある。

なお在留支那人の激増は支那料理と中華マンターの発展をもたらす役割を果した。つぎにパン食普及の推進力となつた在留外人の全国的分布状況をみると次表の通りである。

人口	人口	人口
一八八七	二〇	九四、三九〇
一八九二	二五	一五〇、七〇八
一八九七	三〇	一八七、四五三
一九〇二	三五	三二二、六九五
一九〇七	四〇	三七八、八八四
		一、三三二
		一、五九〇
		一、九八六
		二、四四七
		二、三八三
		二、五七三
		三、三三九
		一、七四二
		三、八〇〇
		三、六四四

在留外人の分布 (大正九年国勢調査)

西歴	年代	教師	技師	事務	職工	雑	計
一八七二	明治五年	一〇二	一一七	四二	四六	五一	三六九
七三		二二七	二〇四	七二	三五	六九	五〇七
七四		一五一	二二三	六八	二七	六五	五二四
七五		八	二〇五	六九	三六	七三	五二七
七六		九	一七〇	六〇	二六	八四	四六九
七七		一〇	一四六	五五	一三	五八	三八一
七八		一一	一〇九	一一八	五一	七	三八一
七八		一二	八四	一一八	五五	七	三三一
七九		一三	七六	一〇三	四五	九	三二二
一八八〇			七六	一〇三	四〇	六	一一

政府お雇い外人の推移 (一)

以上の通りであつて、これで見ると外人の多かつた地域は東京、神奈川、愛知、京都、大阪、兵庫、福岡、長崎、北海道地方であつた。これはこれらの地域の食生活洋風化の一つのパロメーターとみることもできよう。

なお明治初頭に特に多かつた政府お雇い外人がパン食普及に果した役割も大きかつたが、その年次別推移と、国籍別をみると次の通りである。

地区別	人口	地区別	人口
長野	一一一	徳島	三〇
(北陸・中部計)	四六三	香川	四六
岐阜	一〇〇	愛媛	八五
静岡	二一〇	高知	二七
愛知	一、五八五	(四国計)	一八八
三重	四四	福岡	一、〇五〇
(東海計)	一、八四九	佐賀	一四二
滋賀	一五	長崎	二、九〇二
京都	八二一	熊本	二〇二
大阪	一、八六一	大分	一六七
兵庫	七、七八九	宮崎	五五
鹿島	一五四	(九州計)	四、七三六
沖繩	六四	(全国計)	三五、五六九

一八八一	明治十四年	五二	六二	二九	八	一五	一六六
〃 八二	〃 一五	五三	五一	四三	六	四	一五七
〃 八三	〃 一六	四四	二九	四六	八	五	一三二
〃 八四	一七	五二	四〇	四四	八	七	一五一
一八八五	一八	六一	三八	四九	一	七	一五五

これで見るとお雇外人数は明治八年以降減少の一途をたどっている。これは日本人が次第に一本立ちできるように成長していったことを示すものであるが、その国籍別をみるとあらまし以下の通りである。

- お雇外人の国籍別(明治七年)
- アメリカ人…………… 四七人
  - イギリス人…………… 二六九人
  - フランス人…………… 一〇八人
  - ドイツ人…………… 三七人
  - その他…………… 四二人
  - 合計…………… 五〇三人

これで見ると圧倒的に多いのがイギリス人であり、これにつぐものがフランス人である。明治初頭フランスパンがイギリスパンにかわつた原因の一半をここに見出すことができるというものである。

### 第二節 欧米留學生の役割

大正から昭和初頭にかけての元勳であつた西園寺公望は、明治三年(一八七〇)から明治十三年(一八八〇)までパリに留学した。そのためにすつかりフランスパン党になり、帰国後は築地チャリ舎のフランスパンを愛用していたが、明治の末から亡くなるまでは関口フランスパンをたべつづけた。これでもわかるように欧米に留学または駐在した人々はほぼ例外なしにあちらの食生活を身につけて帰つてきた。そしてこのような人々が明治・大正期の日本の指導者としての役割を果したのである。

そういう点からいつて幕末から明治初頭にかけての留學生たちが、パン

食普及のために果たした役割は決して小さくないが、以下は幕末から明治初頭へかけての主なる外遊留學生たちの略年譜である。

#### 幕府派遣の海外留學者略年譜

年次別	事	項
文久元年 (一八六一)	幕府は政治学及び海軍学を研究させる目的で、内田恒次郎、榎本釜次郎、田口俊平、沢太郎左衛門、伊藤玄伯、赤松則良、林研海、津田真道、西周助等の幕臣をオランダのアムステルダムに派遣した。	
慶応元年 (一八六五)	この年幕府はロシアに大築彦五郎、小沢清次郎、志賀浦太郎、市川文吉、田中次郎、緒方城次郎、山内作左衛門等を留学させた。	
慶応二年 (一八六六)	幕府は中村正直(敬宇)川路太郎を監督として、外山正一、箕作大六(菊池大麓)林蕪等をロンドン大学に留学させた。	
慶応三年	幕府はパリーの万国博に徳川慶喜の弟、徳川昭武(民部大輔)を派遣し、博覧会終了後フランスで諸学術を研究させることにしたが、渋沢栄一はその随員の一人であつた。	

以上は幕府が派遣した留學生であるが、攘夷討幕を呼号する一派もしきりに海外に留學生を送りだして、その新知識を吹取しようとしていたのであつて、その主なるものを列挙するとあらまし次の通りである。

#### 幕末反幕派の外遊者年譜

年次別	事	項
元治元年 (一八六四)	上州安中藩士新島襄は、函館から米船に搭じて国外に脱出、アメリカに留学したが、同年岡山藩の花房義實(虎太郎)は長崎から外国船で国外に脱出、世界漫遊の途についた。	

文久二年  
長藩は伊藤後輔(博文) 井上聞多(鑿) 山尾庸三、遠藤謹助、井上勝を英京ロンドンに留学させた。

(一八六二)  
薩州藩は新納刑部、町田久成、寺島宗則、五代友厚、堀孝之、島山義成、名越主税、鮫島直信、田中清州、中島宗見、森金之允

(一八六五)  
(有礼) 吉田清成、高見一、東郷愛之助、町田申四郎、町田清藏、磯永彦助、市来勘十郎、村橋直衛等の十九名をロンドンに送つた。

筑前藩は平賀磯三郎(義實) 青木善平、松下嘉一郎(真美) 本間英一郎、井上六三郎(良) 船越慶次等をアメリカ及ヨーロッパに遊学させた。

慶応三年  
(一八六七)

明六社は明治六年(一八七三)に、これら外遊者たちを中心にして結成された啓蒙団体であり、その果した役割は高く評価されているが、この連中が溜り場所にしていたのは、神田橋外の三河屋牛肉店であった。彼らはこの西洋割烹店で、洋酒とパンと肉をたべつつ国事を論じ、食生活の洋風化について語つたといわれている。後年東京には三河屋系統のパン屋が続出して一大勢力になつたが、これも決して偶然ではない。

いま明治四年(一八七一)までの維新政府派遣の海外留学生しらべを挙げれば次の通りである。

海外留学生しらべ(明治四年九月迄)

国別	英	米	魯	仏	字	白	和	日	清	計
官費	五八	四六	七	四	二九	二	一	一	七	一五三
県費	四一	二八	一	一〇	八	一	一	二	一	九一
自費	八	二四	一	一	四	一	一	一	一	三七
総計	一〇七	九八	八	一四	四一	三	一	二	七	二八一

これによつてみると留学生の多いのは、イギリスとアメリカ、ついで

イツであるが、これでも明治一〇年(一八七七)ごろから幕末のフランスパンにかわつてイギリス流の型焼パンが抬頭したのが偶然でないことがわかる。

なおこの留学生の中には北海道開拓使が明治四年(一八七一)米国に派遣した永井しげ子、津田梅子(津田英学熟頭) 山川捨松(大山巖夫人) 上田悦子、吉益りよ子の五少女があるが、これらの女性によつて食生活の洋風化が推進されたこともみのがせない。

明治中期の欧化風潮は廉鳴館時代の名で呼ばれているが、この廉鳴館時代の先頭に立つたのはこの女子留学生たちであつた。

第三節 海外移民の役割

日本の海外移民のはじまりは明治元年(一八六八)のハワイ移民であつた。それから半世紀後の大正九年(一九二〇)の統計をみると当時の海外移民の合計は六四万八千九百十五人に達している。

主なる移民先は支那本土の二〇万人、北米の十一万五千人、ハワイの一萬二千人、ぐつとおちてブラジルの三万四千人、カナダの一萬八千人、フィリッピンの一萬一千人、ペルーと海峽植民地の各一万人といつたところであるが、当時の移民の相当部分はいわゆる出稼ぎ移民であつた。従つてあちらで一もうけして帰国し、日本で晩年をおくるといつた人々も相当多かつたが、これらの人々のうち特に北米やハワイからもどつてきた人々は、あちらでのパン食生活を日本にもつてもどる場合が少くなかつた。そしてそれらの人々の中にはベーカリーをはじめめる人もあり、これらの人々によつて全国各地にパンが普及したことも否定し得ない事実である。

そうしてそのような出稼ぎ移民の中からパン業界の技術的指導者として活躍した人々も続出した。その主なる人に粗乾燥酵母の発明者、丸十パンの開祖として知られる田辺玄平、大日本製パン製菓学校の開祖杉本隆治、陸軍糧秣廠のパン技術者として貢献した和気仲二などの人々がある。

#### 第四節 基督教の役割

キリストは十字架にかかつて昇天することにきまつた前夜、弟子たちと一語に最後の晩さん会をもちその席で遺言してこういつた。

「このパンはわが肉であり、この葡萄酒はわが血である。おまえたちはこのパンと葡萄酒を手にすることによりわがおしえを思い起せ」と。それ以来このパンと葡萄酒はキリスト教の儀式に欠くべからざるものとなつた。そして製パン技術は教会を中心に次第に洗練されていつたのである。

そんなわけで日本に渡来した基督教各派も教会やミッシヨンスクール、教会経営の病院などを通じてパン食様式の普及浸透に大きな役割を果した。つぎに明治初頭におけるキリスト教の発展を示す二、三の指標を示そう。

#### 外人宣教師の推移表

西 歴	年 号	事 項
一八五九	安政六年	六月一日神奈川、長崎、函館開港 六名の宣教師来朝
一八六七	慶応三	五月兵庫開港勅許
一八六八	明治元	一月新潟開港
一八六九	明治二	宣教師一名となる
一八七三	明治六	二月切支丹禁制の高札撤去
一八七四	明治七	宣教師一挙に五五名に増加
一八七九	明治一二	外国僧一二二名となる
一八八二	明治一五	外国人宣教師一四五名、日本人宣教師一四九名、教会堂九三、信徒四、三六七名、混合学校三九、女学校一五、中学校九、神学校七、日曜学校一〇九、病院五となる。

なお左記は明治初頭の教会数と信徒数の推移概要である。

#### 明治初頭の教会と信徒数の推移表

西 歴	年 号	教 会 数	信 徒 数
一八七八	明治一一	四四	一、六一七人
一八八二	一五	九三	四、三六七
一八八五	一八	一六八	一一、〇〇〇
一八九〇	二三	三〇〇	三四、〇〇〇

こうして逐年伸びていつたキリスト教が、明治四十五年（一九二二）になると、実に二十有余の教派が一千三百余の教会堂をもち、十有六万人の信徒と多数の教育、医療、社会事業施設をもつ一大勢力となつたのである。そしてこのようなキリスト教の発展は、同時にパン食文化の発展でもあつたのであつて、左記はこれを年譜にまとめたものである。

#### 基督教の初期社会文化運動年譜

日本 歴	西 歴	事 項
安政五年	一八五八	六月十九日日米修好通商条約調印、続いて日蘭、日露、日英、日仏条約調印
安政六年	一八五九	各国から江戸、長崎、函館等に宣教師が来朝した 六月一日を期して神奈川（横浜）長崎、函館の三港が開港され、五ヶ国と自由交易開始 神奈川、長崎に各国から六名の宣教師が来朝した
万延元年	一八六〇	英仏連合軍北京を占領 尊王攘夷派の外人殺傷事件頻発

慶応二年	一八六六	幕軍長州軍に敗退。薩長の連合密約成立 フルベツキ致遠館に教える。
慶応元年	一八六五	南北戦争終る。 第二次長州征伐。仮条約勅許。兵庫の開港中止 長崎大浦に天主堂落成 神奈川奉行役宅に修文館開設
元治元年	一八六四	新島襄國禁を侵して渡米決行 蛤御門の変。第一次長州征伐。四国連合艦隊下関攻撃
文久三年	一八六三 (横浜に異人 ペン屋出現)	リンカーン奴隸解放を宣言 文久の変。馬関戦争。薩・英戦争。天誅組の乱。生 野の乱 宣教師神奈川、長崎に來朝
文久二年	一八六二	坂下門の変、生麥事件 ヘボン横浜に治療所を開く ジラアル横浜居留地に天主堂建立 横浜運上所内に英字所開設
文久元年	一八六一	アメリカ南北戦争勃発 ロシア軍艦の対馬占領事件起る 神奈川、函館に宣教師來朝
		神奈川、函館に各国宣教師來朝 フルベツキ長崎済美館校長となる

慶応三年	一八六七	明治天皇即位 位大政奉還、王政復古 十二月七日兵庫開港、大阪開港 ヘボン婦人横浜に女塾を開く
明治元年	一八六八	一月十五日外岡と和親の詔勅渙発 三月十五日天皇五ヶ条誓文を宣誓 十一月十九日東京開市、新潟開港 七月十七日江戸を東京とし鎮守府設置 戊申戦争、鳥羽伏見の戦、上野戦争、会津戦争、東 北征伐 キリシタン宗門禁止の高札を改めて掲げ、浦上教徒 十三人を斬首
明治二年	一八六九 (東京に木村 文明軒出 現)	スエズ運河開通 浦上教徒三千人を配流 米國長老派のカロザイス夫妻東京に女学校を創設 外人宣教師一名となる フルベツキ東京開成学校長に就任
明治三年	一八七〇	普仏戦争勃発 廢仏毀釈行なわれる キングダー女史横浜にフェーリス和英女学校創立 東京にA六番女学校創設
明治四年	一八七一	ドイツ統一しドイツ帝國成立 バラ横浜に小会堂を建て英語と聖書を教授高島学校

明治五年	一八七二	米国婦人横浜に共立女学校創設 熊本洋学校創設ジエーンズ大尉招聘。日本最古の聖公会（今の大阪川口教会）設立
明治六年 （鉄砲州の 蕙本パン店 有名）	一八七三	横浜に邦人最初の基督公会設立 露のニコライ函館より上京築地で開教後駿河台に移る。 二月二十四日太政官布告第六八号により耶蘇教禁止の高札撤去 浦上信徒の釈放を宣言 ブラオン塾をつくる 築地に東京公会（後の新栄教会）設立 コロザース築地大学創設
明治七年	一八七四	佐賀の乱、征台の役 ウイリアムス立教学校を設立 クリスマスが祝われるようになった。 （この頃から各地に教会続出） 海岸女学校（後の青山女学院）創設 浦上養育園設立 東京、大阪、神戸、静岡に教会設立 外人宣教師五五名となる。 邦人最初のクリスマスが祝われた。
明治八年	一八七五	新島襄同志社英学校創設 米国伝道会社神戸女学院創設

明治九年	一八七六	米国女宣教師照暗女学院（後の平安女学院）創設 駿台女学校設立 大阪（三田）弘前に教会誕生
明治十年	一八七七	荻の乱、神風連の乱 東京に原女学校、桜井女学校創設 札幌農学校創立 日曜日制の実施 露・土戦争 西南戦争 同志社女学校創設 立教女学校創設 築地に一致神学校（後の明治学院）設立 この頃から一般家庭でもクリスマスを祝うようになった
明治十一年	一八七八	第二アフガン戦争勃発 上州安中教会設立 大阪に梅花女学校創設
明治十二年	一八七九	美以神学校（青山学院の前身）創設、活水女学校創設 外人宣教師一二二名となる。
明治十三年	一八八〇	成美学園創設
明治十四年	一八八一	鎮西学院創設 先志学校創設

明治一五年	一八八二	フオールズ赤坂病院を設立 遺愛女学校を創設 東京英和学校を青山に移し青山学院とした 外人宣教師一四五名となる。
明治一六年	一八八三	フランスがベトナムを保護国とした。 バルナバ病院設立 立教学院創設
明治一七年	一八八四	京城事変 東洋英和学校創設 鹿鳴館で西洋舞踊の練習始まる。 新島襄同志社大学設立計画発表
明治一八年	一八八五	ドイツカロリン群島占領 明治女学校、仙台東華女学校、福岡女学校、北陸女学校誕生
明治一九年	一八八六	イギリス全ビルマを併合 日本基督教婦人矯風会誕生 東北学院、東山学院、広島女学院、宮城女学校、弘前女学校、松山東雲女学校、捜真女学校誕生 神戸にバルモア学院創設
明治二〇年	一八八七	仏領印度支那成立 石井十次岡山孤児院を創設 広島女学校、静岡英和学校、香蘭女学校、熊本女学校、北越学館、北星女学院、大江高等女学校創設

明治二年	一八八八	カトリック神山復生病院を設立 米教会関西学院を創設 前橋共愛女学校、岡山山陽女学校、新教神学校、フレンド女学校創設 カトリックの関口町教会孤児院にフランスパン部をつくる 本郷定次郎暁星園を創設
明治二年	一八八九	（欧化風潮の鹿鳴館時代終る） 二月一日大日本帝国憲法で、条件付信教の自由認められる。 名古屋金城女学校創立 女子学院創設 山梨栄和女学院創設

以上が幕末から明治初頭にかけてのキリスト教のあゆみであるが、これでもわかるようにヤソ教にたいする苛酷な弾圧政策が邪教禁止の高札撤去というこそくな方法でひつこめられたのは明治六年（一八七三）の二月であつた。しかしキリスト教各派は安政六年（一八五九）の開港以来宣教師をいちはやくこの国に送りこんで、しんぼう強く布教開始の日にそなえていた。これらの宣教師たちはまず治外法権地帯であつた外人居留地に教会堂をつくることから出発、日本語を習得する反面、英学塾や診療所の開設という方法で、布教の地均しに没頭した。禁教後この英語塾はやがてミッション・スクールとなり、診療所は病院に発展していったが、このミッション・スクールの学校給食がパンやケーキや西洋料理普及の源泉となり、病院の病人食として用いられた食パンと牛乳が日本人社会にパンとミルクにたいする関心をたかめ、その潜在需要を喚起する源となつた。

中村屋の開祖相馬黒光は、明治中期横浜のフェリス女学校にまなんだが



彼女が後年ペーカリー中村屋を開業するようになったのは、フェリス時代にヨコハマ・ペーカリー（のちの宇千喜パン）から学校へとどけられたパンの味が忘れられなかつたからだと言っている。

明治六年（一八七三）のヤソ教解禁と共に居留地で待機していた各派の宣教師は全国至るところに進出、布教のための活動をはじめた。その結果開港当時六名にすぎなかつた外人宣教師は増加の一途をたどり、それから十年後の明治十五年（一八八二）には外人宣教師だけで一四五名をかぞえるに至つた。そして鹿鳴館時代の終りである一八九〇年（明治二三）には教会堂三〇〇、信徒三万四千人の勢力となつた。これらの教会堂には神学校、ミツシヨン・スクール、日曜学校、病院などが付属していたが、教会とこうしたその付属機関が、食生活洋風化パン食文化の普及に寄与したことはあらためていうまでもない。なお東京小石川の関口フランスパンは、フランス人主宰の関口町教会経営の孤児院が創設した製パン所の後身である。それから左記は外交官の横山正幸氏がフランスカトリック教会経営の暁星中学（九段坂上）時代（明治後期）の思い出の記であるが、これをよむとキリスト教とパンの深いつながりがよくわかるはずである。

「これは私が九段坂上の暁星中学の寄宿舎にいたころのはなしだ（略）先生たちは異国日本の子弟にキリスト教的文化を植えつけ、人類の進歩に貢献しようと発心して遙々フランスから命を賭として渡来したカトリック教の神父たちが中心となつていたので、物心両面に於て特に異彩を放つていた。（略）日本の国語、習字、地理、歴史以外の諸課目はすべてフランス語で教えられ、遊戯さえもフランス式のバロンとかシャツスールだとかをやつていた。通学生がみな退出したのち、寄宿生のみが午後四時から三十分間運動場でそうしたスポーツに熱中するが、毎日その時間には必ず大きな竹籠に入れたフランスパンが一個ずつ私達のお八ツとして配られたものだ。それは木村屋の菓子パンと似ても似つかぬ、塩味の実においしい食パンであつた。もとよりバターもなくジャムもなく、ただそれだけを囓（かじ）るのだが、何ともいえないうまみがあつた。私たちはこのパンを左手

に握つて時々パクつきながら、バロンやシャツスールをやつた。雨の日は雨天操場に行き、やはりこのパンを頬張りながら鉄棒、並行棒棚、繩梯子、ブランコ、鉄輪、木馬、流動円木などをやつた。こうした朗かな青少年時代のなつかしい思い出と共に私の舌の上に浮び出てくるこのパンの格別の風味は、生涯忘れ難いものの一つである。後年私はフランスでもつと甘いフランスパンを本場のチーズなどと一緒にたべて幾度か舌鼓を打つたが、それよりも反つてこの運動場で腹をすかせながら何もつけずにムシヤムシヤたべた修道院式の質素なお八ツのパンの方が、はるかに美味であつたことを考えると、私は感慨無量である。々噫呼、樂しかりし中学時代よ々と叫びたくなる」と。

なおペーカリーの商売の中で大きな比重を占めるようになったキリスト降誕祭が、クリスチャン仲間だけでなく一般大衆の中に浸透しだしたのは明治一〇年（一八七七）ごろから鹿鳴館時代にかけてであつた。それは当時の欧化風潮の影響の一つであるが、内田魯庵は当時を追想して次の通り語っている。

「切支丹のゆめさめきれぬ日本では、とかくキリスト教が異端扱いされてヤソという舶来のエタのように毛ざらいされたものである。その中でクリスマスだけはふしぎに人気を集めて、信者でない方面にまで流行したパパさんママさんと子供にいわせる家庭では、聖誕を祝して忙しい歳暮にノンビリした春のさきがけを味わせる」と。

## 第五節 ホテルの役割

開港後間もなく誕生したものに外人宿ことホテルがあるが、ここでは本格的な食パンやフランスパンがつくられた。そしてこれがわが国の食パン技術の向上に寄与することになつたのである。

明治初期のホテル発達史

日本歴	西歴	事項
安政六年	一八五九	六月二日横浜、長崎、函館開港
文久三年	一八六三	横浜海岸通り五番に英人W・H・スミス経営の横浜クラブ(クラブホテルの前身)誕生
慶応三年	一八六七	九月江戸築地船板町御軍艦操練所跡にホテル館建設される。建築費約十萬弗。収容人員百余名。宿泊料食事付一日三弗。 十二月七日神戸開港。
明治元年	一八六八	横浜にヨーロッパホテル誕生。 正月築地に江戸ホテル誕生。一泊三兩二分。 十一月十九日新潟開港
明治二年	一八六九	横浜クラブをクラブホテルと改称、純然たるホテルに改組(センターホテルの前身)
明治四年	一八七一	九月江戸ホテル半官半民の外人専門旅館としての営業を廃止して単なる私営旅館となる。 北村重威、岩倉具視卿の援助により築地に精養軒ホテルを建設、仏人チャリヘスを料理長に聘す。 兵庫の米領事館跡に米人経営兵庫ホテル誕生。後イースタンホテルと改称、明治三十年頃廃業。 二月二十六日の銀座大火で江戸ホテル・精養軒ホテル焼失。
明治五年	一八七二	
明治六年	一八七三	横浜海岸通り二五番に仏人経営グランドホテル誕生 客室三十。

明治十年	一八七七	この頃横浜にブレザントンホテルとオリエンタルホテルが誕生した。
明治十一年	一八七八	京都東山に純洋式のホテル自由亭が誕生したが、営業不振の為四、五年で閉鎖した。 箱根宮の下に富士屋ホテル誕生。当時パン・肉類は凡て横浜から取り寄せた。横浜・小田原間は馬車便小田原・箱根間は毎朝人夫が運搬して朝の食卓に供した。
明治十三年	一八七九	京都丸山公園内に也阿弥ホテル誕生。室数四十。
明治十四年	一八八一	マレー・ハンドブック初版記載のホテル名次の通り (横浜) グランドホテル、ウインザーホテル、クラブホテル、ペーヤリスホテル、セントラルホテル、フートホテル、インターナショナルクラブ (東京) 精養軒ホテル (日光) 鈴木旅館、小西旅館。 (鎌倉) 角屋、丸屋、川瀬 (箱根) 富士屋ホテル、奈良屋 (名古屋) 銭屋、近江屋 (京都) 自由亭、也阿弥、中村屋 (奈良) 武蔵野、印判屋、小刀屋 (大阪) 自由亭ホテル(川口居留地付近) (兵庫) 兵庫ホテル(波止場付近) ホテル・ド・コロ

明治十五年	一八八二	ニ一(居留地中央部) 神戸元外人居留地百二十一番にホテル・ド・コロニ ー(後のオリエンタルホテル)誕生。後八十番に移す 鎌倉に海浜院ホテル誕生。
明治二十年	一八八七	外相、井上馨の主唱により有限責任帝國ホテル会社 (資本金廿六万円)を設立。竣工は二十三年十一月 で敷地四、二〇〇坪総建坪一、三〇〇坪、寝室六十 居間十、社長は大倉喜八郎

以上はホテルの略年譜であるが、わが国のホテルの元祖は元禄年間(一六八八—一七〇三)江戸本石町三丁目で開業した長崎屋だとする説がある。それはここで洋風の装飾器具をそろえて、長崎から参勤のオランダ人その他の西洋人を宿泊させたからである。しかしこの食事がパンや洋食であつたか否かは不明である。

したがつてパンをくわせるホテルの誕生は開港以後とみるのが至当であるが、この略年譜にもあるようにホテルはまず横浜で誕生し、それから江戸の築地居留地でおこり、やがて神戸その他の主要都市に拡がつていつた。当時のホテルの流れを汲むもの一つが精養軒であるが、精養軒ホテルの料理長をしていたチャリヘースが明治七年(一八七四)に独立、築地居留地にフランスパンの店チャリ舎を開業した。この店は明治から大正期にかけて、東京を代表するフランスパンの名家であつたが、いまはその跡方もない。

しかしそれはともかくとして、このホテルで働いた職人が食パン技術の向上に貢献したことは疑うべからざる事実である。

### 第六節 遠洋航海船舶の役割

陸の西洋割烹店はホテルであるが、海の西洋割烹店は遠洋航海船舶であ

る。したがつてホテルと同じように遠洋航海船舶の料理人の中にはすぐれた製パン製菓技術者が多かつた。だからこそこの遠洋航海船舶がパン食普及と製パン技術の向上に役立つたのであるが、左記はこの遠洋航海船舶の略年譜である。

### 明治初頭の遠洋航路史年譜

西 歴	年 号	事 項
一八六七	慶応三年	米國太平洋汽船会社(パンフイック・メール)桑港(ソウコウ)―香港(ホンコン)間定期航路開設
一八六九	明治二年	米國太平洋汽船横濱、神戸、長崎、上海支線開設
一八七三	明治六年	米國太平洋汽船会社桑港―上海間定期航路開設、横濱最初の寄港地となる。
一八七五	明治八年	三菱商会上海航路開設(外航の始)
一八七六	明治九年	政府三菱商会に対清航路就航を命令(神戸、長崎、芝罘、牛莊―北清航路)
一八七六	明治九年	英國ビー・オー汽船会社(ベニンシュラー・オリント)上海航路を横濱まで延長する。
一八七九	明治十二年	三菱商会香港航路を開設
一八八五	明治一八年	日本郵船(三菱・共同合併会社)旧三菱商会の横濱上海線、長崎・ウラジオ線、長崎・仁川線を継承
一八八六	明治一九年	日本郵船長崎・天津航路開設
一八八七	明治二〇年	カナダ太平洋汽船会社太平洋航路を開設
一八九三	明治二六年	日本郵船長崎・ボンベイ航路開設でビーオーの航路独占くずれる。
一八九四	明治二七年	日清戦争

一八九六	明治二十九年	日本郵船歐洲航路及び北米航路開設 航海奨励法制定され、指定命令航路に欧米航路のほか 豪州、ボンベイ、ウラジオ、コルサコフの四線追加 される。
一八九七	明治三〇年	東洋汽船香港・桑港線を開設 大阪商船神戸・基隆(キールン)線、鎮南浦線、元山 線、天津線を開設 日本郵船濠州航路を開設、遂に世界大汽船会社の列 に加わる。
〃	〃	
〃	〃	

これで見ると我國の船会社が遠洋航海に手をだしたのは明治八年(一八七五)であるが、この遠洋航海事業はやがて日本郵船、大阪商船、東洋汽船の三系統にほぼしほられていった。しかし邦人経営とはいっても船長や事務長は勿論司厨長までお雇い外人である時代がながいことつづいた。そんなわけでこの遠洋航海船に乗り組んだ職人は本場仕込の腕ききの外人にきたえられた連中であつたから、その食パン技術も優秀であつた。

だいたいにおいてホテル経営者にはフランス人が多く、船のりにはイギリス人が多かつたので、船で修業した職人の多くはイギリス流の型焼パンの名人上手であつたが、その職人の中には船を下りてペーカリーや洋菓子店、レストランを経営する者も少くなかつた。そんなことから次第に本格的な食パン技術が地方にまで浸透していくことになつたのである。

### 第七節 陸海軍の役割

明治維新によつて国の統一が成ると、さつそく西洋流の陸海軍創建の作業がはじめられたが、この近代陸海軍の元祖はまえに言及した江川太郎左衛門であつた。この江川垣庵公が兵糧パンに着眼したいきさつにはすでに言及済みであるが、幕末になると幕府も洋式陸海軍の創建にのりだした。

その幕府がはじめ雇つた先生はオランダ人士官であつたが、やがてそれがフランス人士官にかつた。

その幕府の遺産を継承した明治政府は陸軍にフランス式を海軍にイギリス式を採用したが、のちにはフランスにかつてドイツが陸軍指導の任に當つた。

このように我國の陸海軍はオランダ、フランス、イギリス、ドイツのお雇い士官によつて育てられたが、これらの西洋人士官たちは例外なく兵糧パンの役割を重視し、極力兵隊をパン食に慣れしめるように努力を怠らなかつた。その結果期せずして陸海軍がパン食普及の尖兵としての役割を果すことになつたが、左記はその陸海軍草創期の略年譜である。

### 近代陸海軍とパン年譜

西 歴	年 号	事 項
一八四二	天保一三年	阿片戦争の結果清國英にホンコンを奪われる。
一八四二	天保一三年	伊豆斐山代官江川太郎左衛門兵糧パンを試作する。
一八五四	安政二年	日米和親条約締結(鎖国解消)
一八五五	安政二年	幕府長崎に海軍伝習所を開設オランダ人教官二二名 来朝。
〃	〃	水戸藩医柴田方庵長崎で蘭人から軍用パンの伝習を うける。以後各藩競つて兵糧パンをつくる。
一八五六	安政三年	幕府講武所を開設、洋式砲術の伝習を開始する。
〃	〃	幕府昌平丸(君沢形)で海上訓練を開始する。
一八五七	安政四年	幕府講武所内に軍艦教授所を開設
〃	〃	長崎海軍伝習所にオランダ人教官三十七名来朝
一八五八	安政五年	日米修好通商条約調印 幕府の越中島砲術訓練場竣工

一八五九	安政五年	軍艦「朝陽」「電流」をオランダより購入 神奈川、長崎、函館開港	一八七三	明治六年	攻玉社(海軍士官養成所)生徒の昼食にパンを充てる 海軍にパン食を採り入れる 徴兵令施行 陸軍士官学校仮設
一八六〇	万延元年	幕府長崎海軍伝習事業を中止 咸臨丸アメリカへ初航海	一八七三	明治六年	英国海軍教導団員一六名来朝海軍兵学寮で訓練開始
一八六四	元治元年	幕府大阪御舟手を廃し神戸に海軍操練所を設置	一八七三	明治七年	米陸軍少将ケブロンの進言に基づき北海道屯田兵創設
一八六五	慶応元年	幕府フランス式を陸軍に採用して歩騎砲三兵を新設	一八七五	明治八年	軍艦「筑波」桑港へ初の遠洋航海、木村屋そのパンを焼く
一八六六	〃二年	幕府横浜に陸軍伝習所開設	一八七五	明治九年	鎮守府を東海・西海二ヶ所に仮設
一八六七	〃三年	フランス陸軍の軍事教官団員一六名来朝	一八七六	明治一〇年	西南戦役
一八六八	明治元年	幕府陸軍所に三兵士官学校を設置 戊申戦争、鳥羽伏見の戦、上野戦争、会津戦争、東北戦争	一八七六	明治一〇年	木村屋等西南戦役用パンを焼く 陸軍正式に一部パン食を採用
一八六九	明治二年	新政府軍務官に兵学校を設置 風月堂等が東北戦争用の黒胡麻入り兵糧パンをつくる	一八七七	明治一一年	清輝艦に最初の欧州回航命令 陸軍士官学校開校
一八七〇	明治三年	函館戦争 函館の大野藤造等北海道共和国軍の兵糧パンを焼く 築地に海軍操練所、芝に陸軍操練所を設置 山県有朋等軍制改革に着手	一八八〇	明治一三年	陸軍々用電信隊設置
一八七一	明治四年	常備兵員制を制定、陸軍は仏式海軍は英式とする。 ご親兵一万人、竜驤以下軍艦十五隻を整備	一八八一	明治一四年	海軍機関学校設置
一八七二	明治五年	大阪から東京に移った陸軍兵学寮で仏人教官訓練開始 陸海軍二省設置 徴兵令詔書、徴兵告諭出る。	一八八二	明治一五年	陸海軍に軍人勅諭 海軍省に造船命令
			一八八三	明治一六年	京城事変おこり木村屋派遣軍艦用兵糧パンを焼く 鹿鳴館竣工
			一八八四	明治一七年	陸軍大学校開校 海軍拡張八カ年計画成る
			一八八五	明治一八年	陸軍拡張計画成る 第二次京城事変で東京パン組合兵糧パンを焼く ドイツ参謀少佐メツケル来朝、陸軍仏国式よりドイツ

一八八六	明治一九年	鎮台六師団制採 用呉と佐世保に鎮守府設置 高木兼寛脚氣予防の為海軍に麦めし採用
一八八七	明治二〇年	海軍水雷学校設立
一八八八	明治二二年	海軍大学校設置
一八八九	明治二三年	軍制改革完了、軍備対外転換の完成
一八九一	明治二四年	丁如昌清国北洋艦隊をひきい横浜に来港
一八九二	明治二五年	ロシア東洋艦隊来航
一八九四	明治二七年	対清宣戦布告 パン業者軍用ビスケットを焼く

以上が陸海軍の略年譜であるが、最初のオランダ留学生だつた幕府海軍副総裁の榎本武揚が函館戦争のさい兵糧パンをつくつて官軍に抗戦したことは史実によつて知られている。それからのち我国は西南戦役後、京城事変、日清戦役北清事変日露戦役日独戦争と戦争をかさねたが、その度毎に民間のパン業者に大量のパンの注文が舞いこみ、これが次第に製パン企業が成長していくきっかけになつた。

なお海軍は遠洋航海で兵員の脚氣になやまされ、早くからパンの給食をはじめた。最初は木村屋総本店などがその遠洋航海用のパンを納めたが、やがて海軍自身が軍港に製パン所をもつようになつた。

いずれにしても陸海軍がその草創期からパン食普及に熱心であつたことは広く知られている事実である。

## 第五章 初期のパン関連産業

### 第一節 製粉業近代化の曙

「一こな二たね三技術」といつて粉の良否はパンの良否を決定する最大の条件である。ところが安政開国当時から明治初頭にかけての国産粉は人力または水車製粉であつた。もともとパン用として不適当な内麦をこのよるな原始的な方法で挽碎していたのだから、それでよいパンがつくれるはずがなかつた。

したがつて開国によつて西洋パン食文化のうけいれ体制を確立したこの国としては、製粉業の近代化がぜひ必要であつたが、それには二つのこえ難い隘路があつた。その一つは不平等条約によつて小麦及び小麦粉の関税がゼロとされたことであり、その二は人手や償却費、動力費のかかる機械製粉と水車製粉では機械製粉が割高すぎてとても競争にならなかつたことである。

そんなわけで製粉業の近代化は実際問題としてたいへんむずかしい課題であつた。本節ではそのむずかしい課題が如何にして解決の方向へすすんでいつたかの問題をとらあげるが、左記は幕末から明治初頭にかけての製粉業略年譜である。

#### 明治初頭の製粉業略年譜（明治三二年迄）

西 歴	年 代	事 項
一八五九	安政六年	神奈川、長崎、函館開港英、米仏露蘭の五ヶ国と自由貿易開始。麦粉の中国むけ輸出はじまる。
一八六〇	万延元年	諸国凶荒、小麦粉の輸出禁止、外人への小麦粉販売禁止、物価の引下令。